



地元小学生に対し「環境学習会」を開催しました

筑後川下流右岸農地防災事業所



筑後川下流右岸農地防災事業所では、受益地(佐賀市、小城市・神崎市・吉野ヶ里町・上峰町・みやき町)の小学校を対象に、平成26年度から毎年環境学習会を開催しています。本年度も、11月6日に神崎市立西郷小学校を対象に環境学習会を開催し、27名の児童(4年生)が参加しました。

はじめに、児童たちは教室で、佐賀平野のクリークの歴史や、佐賀平野の農業、一般的な水路とは異なるクリークならではの貯留機能・洪水防止機能などについて勉強しました。

コメント クリークはお米や野菜を育てるために水をためておいたり、大雨のときに洪水を防いだり、色々な役割があることが分かりました。

クリークは昔くねくねしていたけど、今はまっすぐになって洪水が起きなくなったのがすごいと思いました。

続いて、学校の理科室へ移動し、クリークに生息している生き物のことについて学びました。その後、観察水槽やタッチプールに展示された、クリークに生息している生き物を自由に見学しました。中には貴重な絶滅危惧種である、貝の中に卵を産む魚の「ニッポンバラタナゴ」も展示され、生徒たちは水槽に入った生き物を観察したり、触ったりと興味津々な様子でした。

コメント クリークの生き物はぬるぬるしたりザラザラしたりしていました。クリークにはいっぱい生き物がいることが分かりました。

クリークには貴重な生き物が沢山住んでいて、その生き物たちを大切にしていきたいと思いました。

本事業所の環境学習会は、今年度で累計1,531名を超える参加者を迎えました。今後も学習会を通して、多くの児童達に事業の内容やその意義について学んでもらいたいと思っております。